

レビュー（水道の運営基盤の強化）

【主要施策2】最適な運営形態の選択及び我が国の水道にふさわしい多様な連携の構築

【進捗状況】水道事業に携わる技術者の確保

水道技術の継承のための取組み

東京都水道局の事例

水道技術の継承と人材育成

<基本方針>

蛇口の水を直接飲めるということは、我が国固有の「水道文化」であり、これを次の世代に引き継いでいくため、水道技術の継承と人材育成を着実に進め、次の方針により施策を展開する。

- ① 研修・開発センターの活用やOJTなど様々な取組により職員の水道技術の維持・向上を推進する。
- ② 技術をより効率的に継承する仕組み作りを進める。
- ③ 他の水道事業体等に対する水道技術支援について検討する。
- ④ 水道にかかわる人材の裾野を広げるインターンシップを積極的に活用する。



東京都水道局研修・開発センター

レビュー（水道の運営基盤の強化）

【主要施策2】最適な運営形態の選択及び我が国の水道にふさわしい多様な連携の構築

【今後の課題】水道事業に携わる技術者の確保

状況

- ・水道事業に携わる技術職員数は年々減少傾向にある。
- ・職員以外の技術職数、水道技術管理者数及び布設工事監督者有資格者数については、水道統計により平成17年度の値が明らかとなったところであり、今後、その推移の確認が必要。
- ・水道施設管理技士の登録者数は、年々着実に増加している。
- ・平成17年度で50歳以上の職員が42%であり、10年以内に大量退職。
- ・先進的な水道事業者では水道技術の継承のための取組を行っており、一部で退職した技術者の経験を活かす取組が進められている。

目標： 水道の管理に関する技術的基盤を確保していく

今後の対応は？

- ・水道事業に携わる技術者について、官民等連携による技術者の育成・確保等により現在と同等の水準を確保していく必要。
- ・第三者委託の導入が合理的な事業者全てにおいて、第三者委託を実施。

レビュー（水道の運営基盤の強化）

【主要施策2】最適な運営形態の選択及び我が国の水道にふさわしい多様な連携の構築

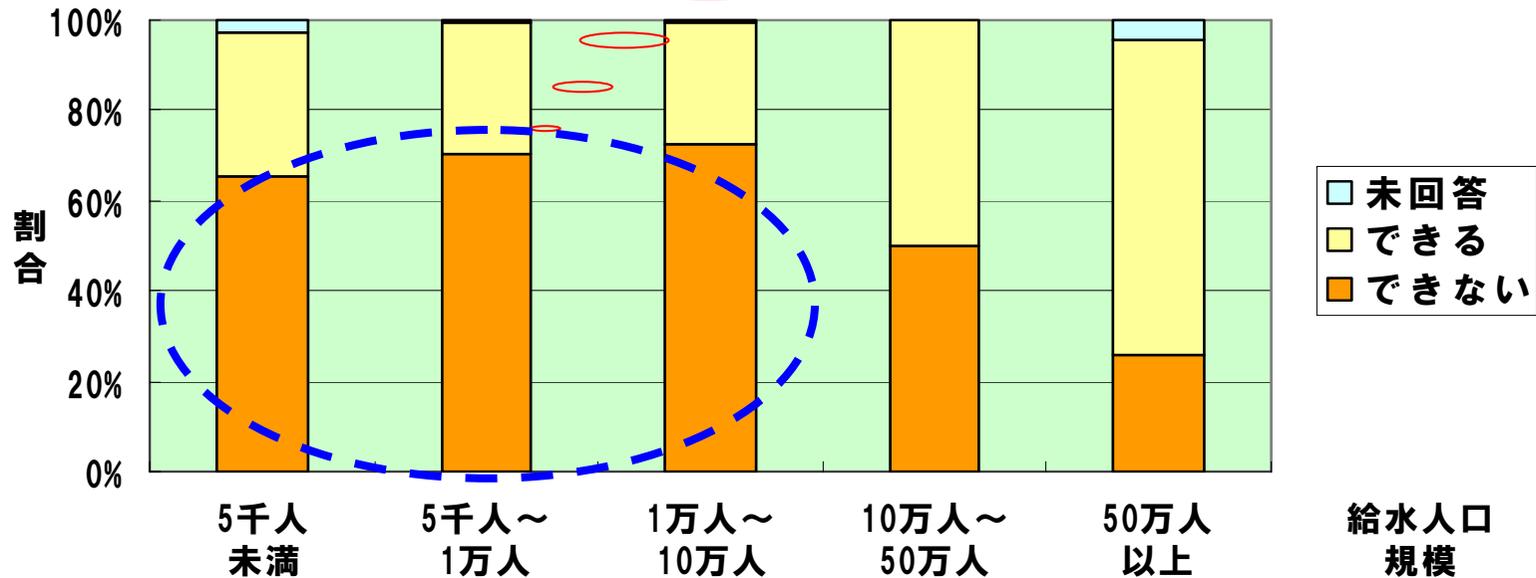
【今後の課題】水道事業に携わる技術者の確保

技術者の育成・確保

多様化・高度化する水道のすべての課題に的確に対処するとともに、現在の給水サービス水準を確保し、向上させるためには、水道施設の運営に関する専門的な知識・経験を有する技術者を継続的に育成・確保していくことが不可欠である。

現在の技術力による将来の事業運営

技術力への不安



出典：水道ビジョン基礎データ集（平成15年）

レビュー（水道の運営基盤の強化）

【主要施策2】最適な運営形態の選択及び我が国の水道にふさわしい多様な連携の構築

【今後の課題】水道事業に携わる技術者の確保

技術者の育成・確保

日本水道協会による研修会・講習会

- ・配管設計・配水管工技能講習会
- ・浄水場等設備技術実務研修会
- ・漏水防止講座
- ・水道技術者専門別研修会
（浄水施設部門、機械・電機・計装設備部門、給水装置部門）
- ・水道事業事務研修会（経営部門、労務部門）
- ・消費税実務講座
- ・未納料金対策実務研修会
- ・水道基礎講座
- ・新任水道事業管理者研修会
- ・水道技術管理者資格取得講習会 等

国立医療保健科学院による教育研修

- 特別課程
 - ・水道工学コース（水環境論、水道計画論、浄水処理技術特論、水質管理特論、特別研究）
 - ・クリプトスポリジウム試験方法コース
- 専門・専攻課程
 - ・水管理工学、都市水管理工学特論及び水処理工学特論

厚生労働省による研修

- ・水道技術管理者研修